

ACLによる創造的パーソナリティー尺度の作成

筑波大学大学院 (博) 心理学研究科 大川 一郎

筑波大学心理学系 渡辺 弥生

Development of a creative personality scale for the adjective check list

Ichiro Ohkawa and Yayoi Watanabe (*Institute of Psychology, University of Tsukuba, Tsukuba 305, Japan*)

The purpose of this study was to develop the Creative Personality Scale (CPS) for the Adjective Check List (ACL). First, the ACL that consisted of 160 adjectives was originally constructed. Then ACL was administered to 102 subjects, who were undergraduate students. On correlations with creative thinking, 42 adjectives were identified with Creative Personality Scale. The reliability of this CPS was high and validity was sufficient. Out of the CPS, 15 adjectives had dealt with previous studies. By factor-analysing the CPS, 5 factors that we named 'receptive', 'positive', 'idea', 'openly', 'egotistic' were extracted.

Key words : Adjective Check List, Creative Personality Scale, factor-analyses

目 的

ACL (Adjective Check List) は, Gough (1965) によって開発された, 300項目の性格表現用語よりなるチェックリストである。このACLの中に, 態度尺度, 欲求尺度等, いくつかの下位尺度が構成されており, それぞれのパーソナリティー特性を測定していく。

当初, ACLは個人のパーソナリティーを行動観察する観察者の記録のための1つの手段として開発された。しかし, 後に自己記述においても人格検査としての有効性が確認されるに至った。

その後, Dauw (1966), Cashdon & Welsch (1966) らにより, 創造的パーソナリティー研究にACLの利用が有効であることが示唆された。それらの研究を受けて, 徐々にACLの中に独自の創造的パーソナリティー尺度 (Creative Personality Scale) を構成していこうとする方向が明確化してきた (Smith & Schaefer, 1969; Domino, 1970; Gough, 1979)。

現在, 創造的パーソナリティーの測定の方式は大きく2つに分かれるようである。1つは, 前述の

ACLを利用し, その中に創造的パーソナリティー尺度を作成していこうとするアプローチのもの, 1つは, Cattell (1970) の作成した人格検査である16PF (Sixteen Personality Factor Questionnaire) を利用し, 同様にその中に創造的パーソナリティー尺度を構成しようとするアプローチのものである。

いずれも, 人間のパーソナリティー全体を捉える目的で作られた人格検査の中に, 創造的能力と深く関連する項目により構成される尺度, つまり創造的パーソナリティー尺度を作成しようとするものである。明確な創造的パーソナリティー理論が確立していない現状からみて, 全体的パーソナリティーの中から, 創造的能力と関連するパーソナリティーを取り出し、いこうとするこれらの研究は, 現段階では, 測定という目的においてより妥当な方向性を有しているように思われる。

本研究では, 創造的パーソナリティー尺度作成に際して, ACLに焦点を当てる。1つには, ACLは, 「自分の性格にあてはまると思われる性格表現用語を2件法でチェックする」方式のため, 16PFより実施法が簡便であることによる。また, 1つには, 16PF

に限らず、一般のパーソナリティーテストと違い、性格表現用語そのものをチェックするために、より直接的に創造的パーソナリティーを理解できるためである。

例えば、Barron & Harrington (1981) は、創造的パーソナリティーの重要な特性として、「広範にわたる好奇心」、「複雑さに対する好み」、「大いなる活力」、「判断の独立性」、「自律心」、「直観力」、「自信」、「二律背反の事態での解決能力」、「矛盾を調整する能力」、「創造に対する確固たる信念」、などをあげている。これまで漠然としていた創造的パーソナリティー像が、このような直接的な形で明確化できるのは、ACL自体が持っているこの性質に負うところが大きいのである。

一方、このことがACLの弱点となりうる。Ironson & Davis (1979) によれば、被験者は意図的に、かなりの程度まで「高創造者の反応」と似せて、性格表現用語をチェックすることができる。それ故、ACLを用いて作成された創造的パーソナリティー尺度は、被験者にとって利害の絡む判定の手段としては適さないことが予想される。

しかし、この限界を踏まえた上で、創造的パーソナリティー尺度としてACLを用いていくことは、測定法の確立も含めて、今後の創造的パーソナリティーの研究に大きな期待が持たれる。

ところで、これまでの研究においては、ACLによる創造的パーソナリティー尺度の作成に重点がおかれ、その内部構造については、必ずしも明らかにされていない。作成された尺度がどのような内部構造をしており、それぞれはどのような関係にあるのかということの検討は、作成した尺度の性質を知る上でも重要であろう。

以上のことより、本研究においては、①ACLにより創造的パーソナリティー尺度を作成すること ②作成した尺度の内部構造を明らかにすること を目的とする。

方 法

ACL (Adjective check list)

作成の手続き

①創造的パーソナリティーに関する性格表現用語の収集：従来の研究においては、Gough (1965) の作成したACLを創造的パーソナリティー尺度作成の際のチェックリストとして用いていた。日本において、標準化されたこの種のチェックリストはなく、同種のリストとしては、青木 (1972) がある程度である。

しかし、青木の研究は「ある行動傾向を表現する手段」として性格表現用語を扱っているにすぎない。それ故に、人間のパーソナリティー全体をおおう目的で作られ、それを用いることで、個人の持つ特有のパーソナリティーを測定しようとしたGoughの研究とは、かなりニュアンスの異なるチェックリストとなっている。

また、青木は性格表現用語として580よりなる項目を選択している。しかし、これまでGoughのACLの中から創造的パーソナリティーを表すものとして同定されてきた用語がかなりの程度抜けている。

これらのことより、青木の研究をGoughの研究と対応して考え、ACLとして青木を用いることには無理があるように思われる。そこで、改めて、Goughと対応するACLを作成する必要がでてくる。しかし、これまでの研究によって、ある程度までは、創造的パーソナリティーの要素が明らかにされている。それゆえに、これらの研究を参考にすれば、Goughのようなパーソナリティー全体をおおうACLを改めて作成しなくても、創造的パーソナリティー尺度の作成に必要であると思われる性格表現用語を収集したもので十分であると思われる。

そこで、Smith & Schaefer (1969)、Domino (1970)、Gough (1979)、Torrance (1962)、Barron & Harrington (1981)、穂山 (1967)、恩田 (1971) を参考にして、全部で220項目よりなる性格表現用語が収集された。

②性格表現用語の選択：①で収集された220項目に関して、性格表現用語としては適切でないと思われる項目、意味が重なり合う項目については、それを省くために、3人の心理学専攻の大学院生（筆者を含む）の合議により1つ1つの項目に対して、検討がおこなわれた。

最終的に、144項目が創造的パーソナリティーと関係すると思われる性格表現用語として選択された。

③ACLの作成：②で選択された144項目の性格表現用語の中からランダムに16項目を選び出した。この16項目は、被験者のACLに対する「反応の一貫性」を検討するために用いられるものである。

ランダムに選出された16項目を、144項目の中にランダムに配置し、全部で160項目よりなるACLが作成された（付表1）。

各項目について、2件法で判断を求めた。得点化は、チェック項目に1点、それ以外には0点を与えた。

実施

大学の講義室で集団で教示をおこなった後、各自持ち帰り記入してもらい、1週間後回収した。教示

は、以下の通りである。

「性格をあらわすことばが、全部で160項目あげてあります。自分の性格に当てはまると思う項目の左側にレ(チェック)してください。あまり深く考えずに、はじめに当てはまると思ったらどんどんチェックしてってください。いくつチェックしても構いません。」

創造的能力の測定

ACLによる創造的パーソナリティ尺度の作成において、尺度項目の選択は創造的能力との関連でおこなわれる。

例えば、Smith & Schaefer (1969)は、創造的能力についての教師評定と創造性テスト得点に基づき、被験者の創造的能力を規定している。Domino (1970)は、芸術的創造能力、文学的創造能力の2側面からの教師評定に基づいている。また、Gough (1979)は、科学者、数学者を対象とし実際の研究業績を創造能力の基準としている。

これらを基準とした被験者の創造的能力とACLの各項目への反応との関連を検討し、創造的能力とより高い相関があるACL項目が、創造的パーソナリティ尺度を構成する項目として選択されるのである。

このため、被験者の創造的能力を測定する必要がある。本研究においては、Torrnce (1967)に従い、創造的能力を、流暢性 (fluency)、柔軟性 (flexibility)、入念性 (elaboration)、独創性 (originality) の4つの観点から捉え、各能力を測定する目的で作られた検査を用いた。

具体的には、トーランス式創造的思考テスト [小林 (1973) により翻訳] とS-A創造性検査・言語性テストA版 [創造性心理研究会編] の2検査を実施した。2検査を実施したのは、被験者のより正確な創造的能力の測定を意図したからである。各検査の標準得点を算出し、その合計得点を各被験者の創造的能力とみなした。また、流暢性、柔軟性、入念性、独創性の4つの下位能力得点も同様にして算出された。

検査は、2か月の間隔において、大学の講義室で集団で実施された。所要時間は、各30分であった。

被験者

ACL199名、トーランス式創造的思考能力テスト226名、S-A創造性検査140名の筑波大学1年生が被験者となった。

3つともにデータが得られたのは、102名であった。

結果と考察

①反応の一貫性の検討

ACLの実施は、実験者の統制のもとでの実施ではなく、各被験者自身に任せられたため、被験者の取り組みに不安が残った。そこで、ACLの重複する16項目について被験者の反応の一貫性の検討をおこなった。反応の一致度が高ければ、それだけ被験者のACLに対する取り組みが真剣であることが確認できるからである。

ACLの重複する16項目の内、その反応が一貫していなかった項目が半数(8項目)を越えた被験者はいなかった。大部分の被験者はACLに真剣に取り組んでいたことが予測される。

さらに、創造的パーソナリティ尺度の精度をより高めるため、二項検定により10%の有意水準を基準として、6個以上の不一致数をもつ被験者15人を以降の分析対象から除外した。

②創造的パーソナリティ尺度の構成項目

創造的思考テスト総合点と相関(10%の有意水準)が見られたACL項目を創造的パーソナリティ尺度を構成する項目として選択した。この際、負の有意な相関がみられた項目は除外した。最終的に、Table 1に示されるような、42項目により創造的パーソナリティ尺度は構成される。

ところで、尺度を構成する42項目の内、「頭の回転が速い」、「あけっぴろげな」、「感受性の強い」、「型にはまらない」、「機知に富む」、「勤勉な」、「口数の多い」、「審美的」、「自信の強い」、「誠実な」、「聡明な」、「独創的」、「冒険的」、「理屈っぽい」の14項目が先行研究 (Smith & Schaefer, 1969; Domino, 1979; Gough, 1979) で取り上げられた尺度項目と共通していた。

③尺度の信頼性

折半法と α 係数により尺度の信頼性の検討をおこなった。折半法において、スピアマン・ブラウンの公式では、 $r_{SB} = .76$ 、ガットマンの公式では、 $L_4 = .76$ であった。また、クローンバックの α 係数においては、 $\alpha = .89$ という結果であった。これらのことより、本尺度は、十分な信頼性を有した尺度であると考えてよいだろう。

④尺度の妥当性

尺度を構成する42項目について、自分の性格に当てはまる項目としてチェックしている場合を1点、チェックしていない場合を0点とした。そして、その合計点を創造的パーソナリティ尺度得点として、以後の分析をおこなった。

基準関連妥当性を示す1つの指標として創造的思

考検査との関連を検討した。具体的には、尺度得点と創造的思考能力得点、4つの下位能力得点との相関を求めた。

その結果、創造的思考能力、4つの下位能力との間に、高くはないが有意な相関がみられた(創造的思考能力 .34:流暢性 .29:柔軟性 .31:独創性 .30:入念性 .33)。測定している創造性の基準は異なるが、Gough (1979) の作成した創造的パーソナリティ尺度では、創造的能力と同程度 ($.15 \leq r \leq .42$) の相関がみられている。

これらのことから、本研究で作成された尺度は、ある一定程度の妥当性を有しているといえよう。

しかし、本研究においては、基準関連妥当性として創造的思考テストとの関連しか検討していない。この意味では、妥当性の検討としては不十分なものである。今後、様々な観点からさらに妥当性を検討していく必要がある。

⑤創造的パーソナリティ尺度の因子分析

本研究で作成した創造的パーソナリティ尺度の内部構造を明らかにするため、42の尺度項目について因子分析をおこなった。

因子の解釈可能性という観点(柳井, 岩坪, 1976)から、任意に5つの因子(全分散の40.7%を説明)を抽出した。結果をTable 1に示す。

因子1(9項目)は、「愛情豊か」、「思いやりのある」、「柔軟性のある」等、環境に対し受容的な性格を示す人間像が浮かび上がってくる。したがって、この因子は「受容性」因子と命名した。因子2(12項目)は、「挑戦的」、「ファイトのある」、「社交的」等、いずれも環境に対して積極的に臨む性格を示しているように思われる。そこで、「積極性」因子と命名した。因子3(8項目)は、「型にはまらない」、「機知に富む」、「着想のよい」等、アイデアを出すためにこれまで必要とされてきている(穂山, 1968)性格特性により構成されている。そこで、「アイデア」因子と命名した。因子4(9項目)は、「奔放な」、「気軽な」、「楽観的」等、開放的な性格特性がまとまっているので、「開放性」因子と命名した。因子5(4項目)は、「つっけんどんな」、「理屈っぽい」、「強引な」等、私の強さを示す性格特性により構成される。そこで、「私の強さ」因子と命名した。

これらの因子は、これまでの研究で創造的パーソナリティの要素として同定されてきた一連のパーソナリティ項目をリストアップし(本研究で作成したACL)、その中から、さらに創造的能力との関連の高い項目だけを選択し(本研究で作成した創造的パーソナリティ尺度)、さらに、因子分析により5つの大きなパーソナリティ特性としてまとめあげ

られてきたものである。それだけに、これらの因子の持つ意味は大きい。すなわち、これらの5因子こそが、創造的パーソナリティの中心となる特性であることが予測されるからである。

つまり、創造的能力の発揮において[受容性]、[積極性]、[アイデア]、[開放性]、[私の強さ]等のパーソナリティ特性は、大きな意味を持つことが示唆されるのである。

⑥各因子の独立性と安定性

各因子の独立性の検討のため、尺度の各因子ごとに得点化をおこない、因子間の相関を求めた。結果をTable 2に示す。

いずれの因子の間にも有意な相関がみられ、5因子はお互いに十分に独立した因子とはいえないようである。

次に、各因子の安定性を検討するため、因子ごとに信頼性係数を求めた。その結果を、Table 3に示す。

それぞれに高い数値がでており、各因子の内的整合性は高く、その意味では十分に安定した因子であると考えてよいだろう。

⑦各因子と創造的能力との関連

創造的パーソナリティ尺度の各因子と創造的能力との関係を検討するため、各因子ごとの得点と創造的能力得点、4つの下位能力得点との相関を求めた。その結果を、Table 4に示す。

また、創造的パーソナリティ尺度の各因子を説明変数とし、創造的思考能力、各下位能力を基準変数とした重回帰分析の結果もTable 5に示す。

重相関係数は、創造的思考能力、その全ての下位能力において有意であった。標準偏回帰係数については、流暢性能力において、[積極性]因子が有意に高い数値を示した。

これらのことより、創造的パーソナリティ尺度を構成する各因子は、創造的能力と深く関連するものであり、また、各下位能力とも深く関連するということがいえるだろう。

さらに、流暢性能力においては、[積極性]因子が他のどの因子よりも深く関連することが示唆されよう。

全体的考察

本研究の第一の目的は、ACLを用いて創造的パーソナリティ尺度を作成することであった。

本研究で作成された創造的パーソナリティ尺度は、「創造的思考検査(トーランス式創造的思考テスト, S-A創造性検査)」を評価基準とした創造的能

Table 1 創造的パーソナリティ尺度項目の因子分析結果

ACL項目	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
誠実な	0.64	0.14	0.12	0.00	0.14
おだやかな	0.58	-0.04	0.01	0.25	-0.19
勤勉な	0.56	0.12	0.24	-0.24	0.21
骨おしみをしない	0.55	0.05	-0.03	0.03	0.16
愛情豊かな	0.52	0.23	0.07	0.21	-0.11
柔軟性のある	0.51	0.05	0.31	0.22	-0.13
思いやりのある	0.46	0.22	0.17	0.18	-0.14
器用な	0.42	0.15	0.05	0.05	-0.13
審美的	0.38	-0.01	0.18	0.24	0.17
挑戦的	-0.03	0.62	-0.00	0.27	0.23
ファイトのある	0.35	0.61	0.04	0.12	0.04
決断力のある	0.10	0.57	0.42	0.02	-0.00
勇敢な	0.38	0.54	0.19	0.09	0.03
熱中する	0.18	0.48	0.06	0.16	0.03
情熱的	0.31	0.47	0.12	0.12	0.30
根性のある	0.46	0.46	-0.15	0.01	0.07
自信の強い	-0.05	0.46	0.22	0.07	0.29
信念が強い	0.45	0.46	-0.10	-0.03	0.19
社交的な	0.13	0.43	0.33	0.28	-0.29
統率力のある	0.02	0.45	0.23	0.02	0.27
冒険的	-0.00	0.37	0.26	0.31	0.30
機知に富む	0.13	0.17	0.74	0.22	-0.00
頭の回転が速い	-0.01	0.23	0.65	-0.01	-0.08
着想のよい	0.29	0.04	0.63	0.02	0.19
独創的	0.15	0.08	0.54	0.06	0.40
探究心に富んだ	0.32	0.03	0.40	0.05	0.30
型にはまらない	0.07	0.13	0.39	0.42	0.24
感受性の強い	0.33	0.11	0.35	0.08	0.37
聡明な	0.35	0.04	0.35	0.24	0.03
楽観的	0.12	-0.04	0.11	0.68	0.05
気軽な	0.16	0.16	0.12	0.65	-0.07
奔放な	0.03	0.23	-0.03	0.58	0.26
あけっぴろげな	0.08	0.24	0.18	0.54	0.06
直感的	0.07	0.11	-0.01	0.43	0.38
興味の広い	0.32	0.06	-0.05	0.42	-0.06
出まかせをいう	0.02	-0.33	0.02	0.32	0.25
明るい	0.13	0.38	0.28	0.31	-0.34
口数の多い	-0.17	0.02	0.29	0.27	0.34
強引な	0.01	0.22	0.16	0.12	0.61
理屈っぽい	-0.04	0.00	0.17	-0.04	0.58
孤独を好む	0.27	0.11	-0.03	-0.02	0.46
つつけどん	-0.08	0.11	-0.10	0.18	0.44
寄与率	19.9	6.5	5.2	4.6	4.4

(N= 102)

Table 2 尺度因子間の相関

CPS \ CPS	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4	因子 5
因子 1	1.00	0.61	0.59	0.45	0.18
因子 2		1.00	0.57	0.53	0.44
因子 3			1.00	0.50	0.41
因子 4				1.00	0.22
因子 5					1.00

(N=102)

Table 3 各尺度因子の信頼性係数

CPS \ 分析法	折半法		α 係数
	スピアマン -ブラウ	ガットマン	
因子 1	0.73	0.72	0.75
因子 2	0.78	0.77	0.82
因子 3	0.73	0.73	0.77
因子 4	0.69	0.68	0.70
因子 5	0.46	0.46	0.50

(N=102)

Table 4 尺度因子と創造的思考テスト間の相関

テスト \ CPS	流ちょう性	柔軟性	独創性	入念性	総合
因子 1	** 0.20	** 0.26	* 0.16	** 0.28	** 0.25
因子 2	* 0.21	** 0.27	** 0.25	** 0.31	** 0.29
因子 3	** 0.23	* 0.18	** 0.24	** 0.25	** 0.25
因子 4	** 0.30	** 0.25	** 0.27	** 0.21	** 0.30
因子 5	** 0.20	* 0.18	** 0.25	* 0.17	** 0.23

(N=102) + p<.10 * p<.05 ** p<.01

力と関連する創造的パーソナリティを測定する尺度」という限定はあるものの、一定程度の妥当性、高い信頼性を有する尺度であった。この意味においては、第一の目的は達成された。このことは、日本においてもACLが創造的パーソナリティ測定のための1つの手段に十分になりうることを示唆する

Table 5 尺度因子と創造的思考テストとの重回帰分析の結果

基準変数 \ 説明変数	流ちょう性	柔軟性	独創性	入念性	総合
因子 1	0.07	0.17	-0.02	0.14	0.10
因子 2	-0.04	0.09	0.06	0.16	0.07
因子 3	0.03	-0.10	0.06	0.05	0.00
因子 4	* 0.25	0.15	0.18	0.02	0.18
因子 5	0.13	0.11	0.16	0.05	0.13
R	* 0.34	* 0.33	* 0.34	* 0.34	** 0.36

(N=102) + p<.10 * p<.05 ** p<.01

ものである。

しかし、本研究の成果をもって、創造的パーソナリティを測定する1つの方式が確立したと言い切ることはできない。評価の基準を創造的思考検査だけによるのではなく、さらに様々な観点から創造的能力を規定し、それらとの関連で、また、新たな創造的パーソナリティ尺度をACLを用いて作成していく必要がある。

そのような研究の積み重ねによって、創造的パーソナリティ尺度を構成する項目も定まってくるだろうし、その適用の範囲も広がってこよう。このようにして初めて、創造的パーソナリティ測定のための1つの方式がより完成されたものとして提出されうるだろう。

ところで、本研究の創造的パーソナリティ尺度を構成する42項目のうち15項目が、欧米での先行研究と共通するものであった。これら15項目は、日本と欧米という文化の違いを越えて創造的パーソナリティとして共通した特性であり、またそれだけに、重要なパーソナリティ特性であることが示唆されよう。

本研究の第二の目的は、創造的パーソナリティ尺度の内部構造を明らかにすることであった。

因子分析により、創造的パーソナリティ尺度を構成する因子として、[受容性]、[積極性]、[アイデア]、[開放性]、[我の強さ]と命名される5つの因子が抽出された。このことは、本尺度がこれらの5つの観点から創造的パーソナリティを測定しようとするものであることを示している。また、このこ

とは、これら5因子が創造的パーソナリティーの中心的特性であることを示唆するものでもあろう。

さらに、これら5因子は、それぞれに創造的思考検査を評価基準とした創造的能力と深く関連するものであり、特に、[開放性]因子は大きな影響力を持つようである。

さて、本研究でおこなったような尺度の内部構造の分析は尺度自体の分析に止まらず、創造的パーソナリティー自体に関しても、様々な観点からの検討を可能にする。このような意味において、これまでともすればおぼろげにされがちであった内部構造の分析は、今後ともますます必要となつてこよう。

引用文献

- 穂山貞登 1967 創造の心理学・増補版 誠信書房
 穂山貞登他 1968 創造性研究ハンドブック 誠信書房
 青木孝悦 1979 性格表現用語580語の意味類似による多因子から作られた性格の側面 心理学評論 43, 125-136.
 Barron, F. & Harrington, D.M. 1981 Creativity, Intelligence and personality, *Annual Review of Psychology*, 32, 439-476.
 Cashdon, S. & Welsch, G.S. 1966 Personality correlates of creative potential in talented high school students, *Journal of Personality*, 34, 445-455.
 Daww, D.C. 1966 Personality self-descriptions of original thinkers and good elaborators. *Psychology in the Schools*, 3, 78-79.
 Domino, G. 1970 Identification of potentially creative person from the adjective check list. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 34, 250-257.
 Gough, H.G. 1979 A creative personality scale for the adjective check list. *Journal of Personality and Social Psychology*, 37, 1398-1405.
 Ironson, G.H. & Davis, G.A. 1979 Forking high or low creativity scores on the adjective check list, *Journal of Creative Behavior*, 13, 139-145.
 小林純一 1973 不安と創造性 岩崎学術出版社
 恩田彰 1971 創造性の研究 恒星社厚生閣
 Torrance, E.P. 1962 Guidance creative talent. 佐藤三郎(訳) 創造性の教育 1966 誠信書房
 Smith, J.M. & Schaefer, C.E. 1969 Development of a creative scale for the adjective check list. *Psychological Reports*, 25, 87-92.
 柳井晴夫他 1976 複雑さに挑む科学 講談社
 —1989. 9. 30受稿—

附表

ACL項目(1)

No.	項 目	No.	項 目
ACL 01	有能な	ACL 41	自己受容的※
ACL 02	自発的な	ACL 42	機敏な
ACL 03	愛情豊かな	ACL 43	むこうみずな
ACL 04	想像力に富む	ACL 44	しつこい
ACL 05	聡明な	ACL 45	疑い深い
ACL 06	口数の多い	ACL 46	意地っぱり
ACL 07	社交的な	ACL 47	私の強い
ACL 08	明るい	ACL 48	肝の座った
ACL 09	ユーモアのある	ACL 49	衝動的
ACL 10	ぼやぼやする	ACL 50	男性的-女性的
ACL 11	念入りな	ACL 51	柔軟性のある
ACL 12	頭の回転が速い	ACL 52	のんびりした
ACL 13	決断力のある	ACL 53	不平不満の多い
ACL 14	固執する	ACL 54	奔放な
ACL 15	慣習にとらわれない	ACL 55	気軽な
ACL 16	辛らつな	ACL 56	献身的
ACL 17	落ちつきのない	ACL 57	自己中心的※
ACL 18	純真な	ACL 58	自我が強い
ACL 19	ファイトのある	ACL 59	身勝手な
ACL 20	勇敢な	ACL 60	あらさがしをする
ACL 21	あけっぴろげな	ACL 61	情熱的
ACL 22	勝気な※	ACL 62	自己統制的※
ACL 23	楽観的	ACL 63	融通がきく
ACL 24	けじめのない	ACL 64	ユニークな
ACL 25	小心な	ACL 65	慎み深い
ACL 26	打ちとけない	ACL 66	無とん着な
ACL 27	感受性の強い※	ACL 67	主観的
ACL 28	早のみこみの	ACL 68	粗雑な
ACL 29	分別のある	ACL 69	思いやりのある
ACL 30	空想的	ACL 70	口が重い
ACL 31	人をけなす	ACL 71	型にはまらない
ACL 32	冷酷な	ACL 72	折り目正しい
ACL 33	ずけずけいう	ACL 73	批判的
ACL 34	つつけんどん	ACL 74	機知に富む
ACL 35	努力する	ACL 75	急進的
ACL 36	活動的	ACL 76	徹底する
ACL 37	理屈っぽい※	ACL 77	熱中する
ACL 38	出まかせをいう	ACL 78	骨おしみをしない
ACL 39	気どる	ACL 79	向上心のある
ACL 40	うぬぼれる	ACL 80	積極的

※は重複項目

ACL項目(2)

No.	項 目	No.	項 目
ACL 81	理屈っぽい	ACL 121	献身的※
ACL 82	自信の強い	ACL 122	意志の強い
ACL 83	なげやりな	ACL 123	野心的
ACL 84	好き嫌いのはげしい	ACL 124	ユーモラスな
ACL 85	スピーデーな	ACL 125	多才な
ACL 86	洞察力のある	ACL 126	根性のある
ACL 87	着想のよい	ACL 127	主体的な
ACL 88	器用な	ACL 128	思慮深い
ACL 89	興味の広い	ACL 129	好奇心の強い
ACL 90	信念が強い	ACL 130	高飛車な
ACL 91	活動的※	ACL 131	自己中心的
ACL 92	利他的	ACL 132	ルーズな
ACL 93	内気な	ACL 133	ねばり強い
ACL 94	理想主義の	ACL 134	独創的
ACL 95	論理的	ACL 135	念入りな※
ACL 96	才気にあふれる	ACL 136	勝気な
ACL 97	審美的	ACL 137	ずけずけいう※
ACL 98	寛大な	ACL 138	気を使う
ACL 99	おだやかな	ACL 139	孤独を好む
ACL 100	沈着な	ACL 140	理性的
ACL 101	従順な	ACL 141	直感的
ACL 102	気どる※	ACL 142	自我が強い※
ACL 103	控え目な	ACL 143	感情的
ACL 104	不安な	ACL 144	攻撃的
ACL 105	探究心に富んだ	ACL 145	内向的
ACL 106	独立的	ACL 146	正直な
ACL 107	ピントはずれ	ACL 147	せっかちな
ACL 108	鈍感な	ACL 148	内省的
ACL 109	慎重な	ACL 149	率先する
ACL 110	地道な	ACL 150	頑固な
ACL 111	勤勉な	ACL 151	目標追求的
ACL 112	感受性の強い	ACL 152	大胆な
ACL 113	うぬぼれる※	ACL 153	身勝手な※
ACL 114	軽率な	ACL 154	挑戦的
ACL 115	気まぐれな	ACL 155	統率力のある
ACL 116	強引な	ACL 156	へそ曲り
ACL 117	素直な	ACL 157	自己受容的
ACL 118	風がわりな	ACL 158	柔軟性のある※
ACL 119	誠実な	ACL 159	自己統制的
ACL 120	冒険的	ACL 160	批判的※

※は重複項目